

東陽齋主人誌

の東あつし

野桑の葉は長く狭いハチの葉
まじりて腹美如く

百日餘幹して支すは是れ食
せし豆の葉なり一葉は十二

イソバニテ圓く

実等の幹は細く又今も六十二年前
又西洋の諸穀は好まざる

歐目より長く其日封の雨と天竺封の
其心幹は長く日封の葉は命を

其多幹は長く日封の葉は命を



豆の葉の圖
果の圖

圖は同封の葉の所 歐土の葉は其の幹は

其樹根は浅く土は其の葉は支すは是れ其
昔は王の支封の葉は是れ

の葉は支すは是れ其の葉は是れ
其の葉は是れ其の葉は是れ

其の葉は是れ其の葉は是れ
其の葉は是れ其の葉は是れ

其の葉は是れ其の葉は是れ
其の葉は是れ其の葉は是れ

其の葉は是れ其の葉は是れ
其の葉は是れ其の葉は是れ

其の葉は是れ其の葉は是れ
其の葉は是れ其の葉は是れ

其の葉は是れ其の葉は是れ
其の葉は是れ其の葉は是れ

其の葉は是れ其の葉は是れ
其の葉は是れ其の葉は是れ

其の葉は是れ其の葉は是れ
其の葉は是れ其の葉は是れ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

天より降る豆の辨

およそ非常の物の天より降る豆は昔も今も稀に有る豆ありし其物よ就て考ふれば決して怪むに足らざれども流俗の習ひ諛を好む者の嘉瑞と云ひ罵り痴呆なる者の災異と云ひ恐怖し種々の妄説を唱ふる豆ありし其物學びたる人の苟且の豆やも心を用ひ物を格し理を窮めて惑を弁へしむくまへん○今茲慶應元し丑年閏五月下旬より六月の初まで天より豆の如き物を降らば豆數十度あり或時ハ風雨は随て降り或時ハ晴天風雲無くし此物のみ降る豆あり始と其物詳るるハ或ハ菩提樹の實ありと云ひ或ハギンマノの根よ生まる実ありと云諸説紛々し然るも其実を精く檢はる小樟樹の属する豆疑ひ無し尚其證據を得んと欲せしハ偶東叡山多宝塔の邊に救ママクスの大樹ありて夥多の實を結ぶるを見る其樹下ハ落る者を見ふ所々ハ降る者少くも異なる豆無し是は於て疑念氷解せり此樹ハ樟の類なり處處々自生の者少くハ蓋し其実將ハ熟せんとす方りて颯々降るの爲ハ巻上げられ所々ハ降る者多し其後晴天ハ降る者少至る豆扶頗る疑ふ可し恐るハ狡獪の徒の所爲ありし其樹既ハ知らるる上ハ実の落る豆何ぞ怪むに足らん依り其圖を刻し同社ハ領つ○附 唐土にも樹實の降る豆あり

其物詳るる依り月中の桂実ありんと

云ハ傳ハ是ハ月桂の名を命ぜり豆本草綱目よ見えり其月桂ハ即ち天竺桂なり又西洋の記録を按ぎて橡実。白屈菜の實等の降る例少くハ又今より六十二年



ヤマクス一名イヌクス又アヤクスとも云

蘭心 アフリカーンセ ラウリール

イスパニヤ國レオンと云地より豆の如きりの一度ハ千二百斤程降る豆あり是を食するハ頗る美味なりと云窮理家の説ハ是ハセンダイハギの類の實ありしと云

東陽齋主人記